「偉人は英傑を識る」
安政六年 (一八五九)、松下村塾を創り、多くの子弟を教育した吉田松陰は、いわゆる安政の大獄により、死罪となり、斬首されました。その遺骸は長い間返還されませんでした。松陰門下生の日下玄瑞、高杉晋作、伊藤俊輔 (博文) は、山田方谷に依頼する事を決し、代表して日下玄瑞は涙の滲む書状を認め、方谷に送りました。(書状は現存しています)。

方谷は板倉勝静を動かす力があると確信したからでしょう。その後松陰の遺骸は引き渡され、小塚原の刑場から、上野三枚橋 (橋が三本ある) の中央橋 (将軍の御成り橋) を通り、毛利家の飛び地へ改葬されました。